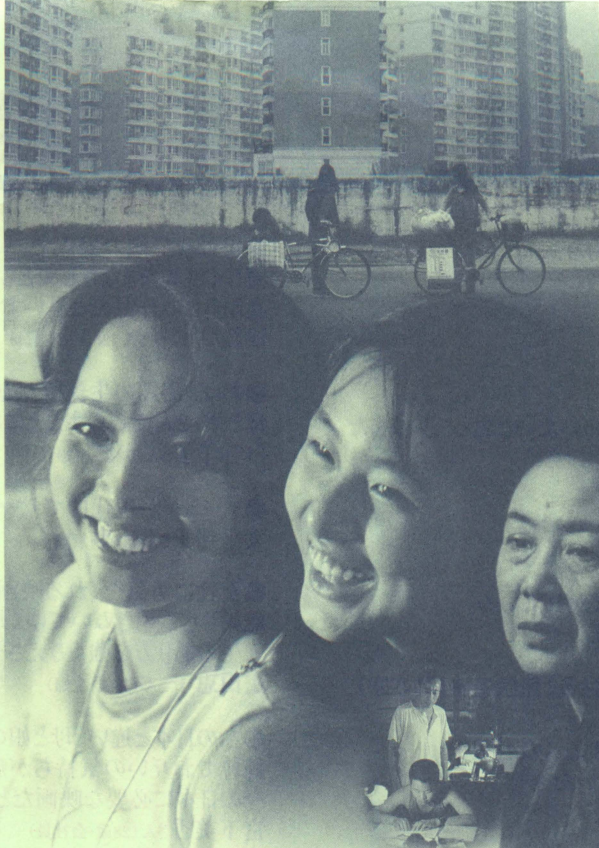


おかしくも、哀しく、温かい：  
上海に暮らす、庶民の息づかい  
人と人との絆がここにある。



〈スタッフ〉

製作総指揮\*許明衆(シュイ・バンルア)  
製作\*朱永徳(チョウ・ヨントウ)  
製作補\*賀子壮(ホウ・ツージョン)/仲峰(チョン・チョン)  
製作進行\*梅少奎(メイ・シャオクイ)  
監督\*彭小蓮(ポン・シャオレン)  
脚本\*彭小蓮(ポン・シャオレン)/徐敏霞(シュエ・ミンシャ)  
撮影\*林良忠(リン・リャンチョン)/朱東茸(ジュートンロウ)  
美術\*周欣人(チョウ・シンレン)  
録音\*盧学瀚(ルー・シュエハン)  
作曲\*潘国醒(パン・クワンシン)  
編集\*沈伝梯(シュエン・チュエンティ)

〈キャスト〉

阿霞(アーシャ)\*周文倩(チョウ・ウェンチン)  
アーシャの母\*呂麗萍(リュイ・リーピン)  
李おじさん(アーシャの義父)\*孫海英(ソン・ハイイン)  
祖母\*鄭振瑤(チェン・チェンヤオ)  
アーシャの父\*劉家楨(リュウ・ジャチエン)  
叔父\*夏軍(シャ・ジュン)  
叔父の嫁\*丁丹妮(ティン・タンニー)  
強強(チャンチャン=アーシャの義弟)\*王鏡超(ワン・チンチャオ)  
侃侃(カンカン=アーシャの幼なじみ)\*胡歌(ホウ・コー)  
社(トウ=アーシャの男友達)\*潘尚懿(パン・シャンイ)  
カンカンの父\*王偉平(ワン・ウェイピン)  
カンカンの母\*陳鴻梅(チン・ホンメイ)

上海映画製作所 制作

岩波ホール・フォーカスビクター・エフプロモーション・東和プロモーション 共同提供

東宝東映配給

ビスタサイズ/ドルビーSR/上映時間:1時間36分/35mm/カラー作品/2002年中国映画

字幕:古田由紀子/翻訳協力:仲傳江+森川和代

後援:中国大使館文化部



SHANGHAI WOMEN

假裝没感覺

# 上海家族



監督\*彭小蓮(ポン・シャオレン)

この作品は、現在、上海に暮らす人達の生存の空間と精神の空間を描いた物語です。映画とはいっても、ある時代の人の生活ぶりや感情、そして彼らの悲しみや喜びと、再会や別れを表しています。この作品を通じて多くの人に、今日の上海一般市民階層の側面を知ってほしいのです。

上海は天地を揺るがすほどに変化しています。この大変化はいわゆる経済制度の改革であります。その結果、一晩で億万長者になる人が生まれ、社会に注目されます。しかし、多くの一般人は依然生計のため、明日を信じて努力していますが、この人達は常に社会に見落とされます。

この映画はまさに社会に見落とされた、これらの人間を描いた作品です。

物語は三世代の女性を通して展開していきます。

〈解説〉

岩波ホールの〈エキブ・ド・シネマ〉は、2004年に発足30周年を迎える記念作品として、21世紀の新しい中国の胎動を感じさせる映画『上海家族』を公開する。

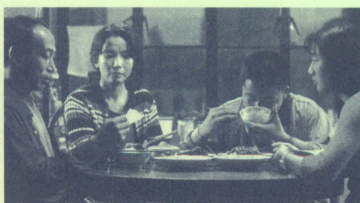
上海—中国4000年の歴史と、欧米の文化が混在する中国随一の大都会。『上海家族』は、上海の旧市街を舞台に、この街を心から愛する女性監督ポン・シャオレンが、祖母・母・娘と、異なる三世代の女性の感情をきめ細やかにすくいとり、現代中国の“家族の肖像”を描いた感動作である。離婚、再婚、そして自立への道を歩む女性たち。大人への不信と幻滅、母子の絆が、女性の視点で鮮やかに描かれる。母子を取り巻く様々な人間模様は、可笑しくも哀しく、そして温かい。

本作は上海に暮らす庶民の息づかいを、時代の大きな変化とともに見事に映し出してゆく。監督はドキュメンタリー的な手法を持って、素朴でリアルな映像を創り出し、人々に親しみや温もりを感じさせる映画を創り出した。

〈物語〉

15歳の娘・阿霞(アーシャ)の父に愛人が出来た。その関係を2年も続け、いっこうに家庭を省みない夫の態度に母は離婚を決意し、阿霞を連れて祖母の住む狭い実家に戻ることになる。やがて母は、阿霞のために妻を病気でなくした李さんと再婚する。しかし、真面目で堅実と聞かされていた李さんが、実はとてもケチな男だとわかり、失望した阿霞は学友・侃侃(カンカン)の幸せな家庭が羨ましくてならない。やがて、母と李さんは生活費の問題で口論となり、母は阿霞を連れ、またもや、家も離れることになる。一方で、阿霞の父は愛人に逃げられ、母との復縁を望んでいた。

“パパと復縁しないで! パパは信じられないわ”。阿霞は自分の為に母が自分勝手な父と無理に一緒になることを望まなかった。そして、好きでもない李さんのような男と結婚することも。母は娘といっしょに実家を離れ、父や親族から独立して、ふたりだけで生活する事を決意するが...



2004年5月1日より岩波ホールにてロードショー引き続き、全国主要都市にて公開!



# 『上海家族』に寄せられた感動と共感の声!

●高度成長まっただなかの上海の街の活力と、自立をめざす母と娘の気概が素晴らしい。

佐藤忠男さん(映画評論家)

●見終わると心は晴ればれ。  
女性監督には、こういう映画をこそ作ってもらいたいと思っていました。

小藤田千栄子さん(映画評論家)

●急激に成長する上海という都会、その裏側に潜んだ住宅事情や古い家族関係との葛藤がドラマの中心に置かれている。  
…女性監督らしい丁寧な描写が随所に光る。

鈴木尚之さん(シナリオ作家協会前会長「飢餓海峡」脚本家)

●現代の上海に生きる女性たちの人生と自立への過程を、中国の女性監督が初めて女性の側から描いた秀作。とても感動しました。

内田ひろ子さん(『女性情報』発行人)

●この作品のなかには、監督の母への想いがこめられていて、それが私たちの目を開かせてくれます。

大竹洋子さん(東京国際女性映画祭ディレクター)

●祖母・母・娘の視点で優しく平等なまなざしでとらえられた映像だと思います。素晴らしい作品だと思います。  
伊藤いずみさん(26歳・会社員)

●おばあさんの生き方に、感動しました。  
母と娘、2人で暮らすことになりよかった、と、思いました。  
白石洋子さん(72歳・主婦)

●アーシャが現代的で堂々としている。大変、良かったです。  
大平邦子さん(54歳・無職)

●女性に勇気をくれる映画です。  
離婚しても生きぬいてゆく母親、娘の主張、祖母の温情とともに人生のあり方を強く考えさせられます。  
広田恵子さん(58歳・主婦)

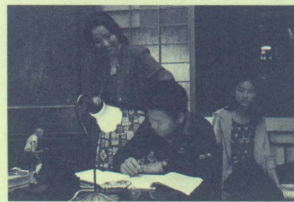
●今の日本と違い、母と娘の関係が強い信頼と絆で結ばれていた。純粋でお互いの気持ちが痛い時があった。今の日本に必要な映画だと思った。  
宮下美香さん(28歳・会社員)

●現代の等身大の女性が描かれている。あたたかい人間味を感じさせるセリフ、良かったです。  
野田珠美さん(37歳・会社員)

●自分のために生きようとする娘の毅然とした姿は美しく子供のために生き方を捜し、右往左往する母の弱く切ない優しさは、苦しい。祖母の冷静な表情から、流れる涙は感動的であった。  
国田好信さん(53歳・教員)

●親子関係、夫婦関係を、改めて考えさせられた。あまりにどこの国にも通用しそうなテーマなので、びっくりしている。  
沖 明さん(64歳・会社員)

(2003年11月3日 第16回東京国際女性映画祭・東京ウイメンズプラザにて上映:原文のまま)



2003年トリノ国際女性映画祭◆最優秀作品賞・最優秀監督賞・最優秀助演女優賞(チェン・チェンヤオ)・受賞  
第24回フランス・ナント国際映画祭◆最優秀主演女優賞(チョウ・ウェンチン)・受賞  
第3回中国語映画メディア賞 ◆もっとも愛された女優賞(リュイ・リーピン) 銀賞・受賞

2003年カイロ映画祭“最優秀芸術貢献賞”◆ノミネート  
第10回北京大学生映画祭◆特別招待作品  
2003年ポーランド・中国映画週間◆特別招待作品

第16回東京国際女性映画祭参加作品

